

【目標】

一、「形」とは何か、作者はなぜ「形」という題名にしたのかを考え、

本文をもとに物語世界を想像して表現することができる。

二、身の回りの「形」を考え、自己の考えを深めたり広げたりして表現し、
他者の考えを傾聴する「こと」ができる。

①中村新兵衛の実力のピークはいつか。また、そう考える理由は。

②若侍の武士としての実力はどれ位か。新兵衛の「形」を借りただけで敵を突き伏せられるのか。

③「形」とは何か。

④菊池寛はなぜ「」の作品の題名を「形」にしたのか。「マント事件」

世の中にある「形」

⑤自分の身の回りに「」がある「形」はどんなものか。それとあなたはどのように向き合っていたいか。

菊池寛「半自叙伝」から Kは倉田、青木は佐野のこと。

「私は、K(倉田)がなぜ青木(佐野)に妹を紹介したのかわからない。

(中略)しかし、その動機がいずれにしろ、妹を若い青木(佐野)に紹介するなどは、よく云えばロマンチックでわるく云えば不謹慎である。

その意味で、K(倉田)は後年その著作で名声を博したが、私はその人(倉田)を信用する気にはなれなかった。と、云うのも、私は、K(倉田)のそうしたロマンチックな企てのとばかりを喰ったからでもあった」

菊池寛「半自叙伝」から

「私は泣きしきっている彼(佐野)に、寮務室へ行って、私の冤罪を雪そそいでくれとは云えなかった。その上、私は一高を出ても、大学へ行く学資の当は全然なく、やや自棄的な気持ちにもなっていたし、青木が自ら行くと云わない以上、彼を無理に寮務室へやらせる気持ちにはなれなかった。私は、到頭青木の代りに学校を出る決心をした。私は、初めから好んで義侠的に身代りになろうと思ったのではなかった。(中略)私が自分が助かると同時に、青木の善後策をしてやろうと、一時罪を背負ったため、それを青木に背負い直させることが到頭出来なかったのである」

暦	和 暦	年 齢	事項
1888	明治 21	0	12 月 26 日、香川県香川郡高松七番丁（現高松市天神前）に父武脩、母カツの 4 男として生れる。 高松藩の武士の家柄。
1895	明治 28	7	四番丁尋常小学校入学。（旧四番丁小学校）
1903	明治 36	15	県立高松中学校入学。（現県立高松高等学校）
1908	明治 41	20	推薦で東京高等師範学校に入学。翌年除籍。
1910	明治 43	22	第一高等学校文科に入学。 芥川龍之介と同級生になる。
1913	大正 2	25	*友人の窃盗事件に巻き込まれ卒業目前で退学。 京都帝国大学英文学科に入学。 『万朝報』の懸賞に当選。将棋を習う。
1914	大正 3	26	第三次『新思潮』に参加。草田杜太郎の筆名で戯曲「玉村吉弥の死」等発表。
1916	大正 5	28	第四次『新思潮』創刊。戯曲「屋上の狂人」等発表。京大卒業。 時事新報社入社、社会部の記者となる。
1917	大正 6	29	同郷の奥村包子と結婚。戯曲「父帰る」等発表。
1918	大正 7	30	「無名作家の日記」「忠直卿行状記」等発表。文壇での地位を確立。
1919	大正 8	31	時事新報社を退き、大阪毎日新聞社の客員となる。
1920	大正 9	32	新聞小説「真珠夫人」で成功。 1 月 2 日付大阪毎日新聞に「形」掲載。
1923	大正 12	35	文藝春秋社を創設。雑誌『文藝春秋』創刊。
1926	大正 15 昭和元	38	文藝家協会を組織。報知新聞社の客員となる。
1927	昭和 2	39	誌上座談会を創出。芥川龍之介没。
1935	昭和 10	47	芥川龍之介賞、直木三十五賞を創設
1938	昭和 13	50	「日本文学振興会」を創立。初代理事長となる。
1944	昭和 19	56	芥川龍之介賞、直木三十五賞を創設